

日本自閉症スペクトラム学会 第7回研究大会プログラム

「自閉症スペクトラム児・者の発達と社会参加への支援」

2008年9月13日（土）～14日（日）

会場：東北大学 川内北キャンパス



TOHOKU
UNIVERSITY

大会会場「東北大学川内北キャンパス」までのアクセス方法

1. JR 仙台駅までのアクセス方法

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1) JR 東京駅から JR 仙台駅までの所要時間 | 2) 仙台空港から JR 仙台駅までの所要時間 |
| ・新幹線をご利用の場合：2 時間程度 | ・リムジンバスをご利用の場合：約 40 分（¥700） |
| ・高速道路をご利用の場合：6 時間程度 | ・アクセス鉄道をご利用の場合：約 25 分（¥630） |

2. JR 仙台駅から学会会場までのアクセス方法

- 1) 仙台市営バスをご利用の場合：所要時間 20 分程度、運賃 180 円

バス乗り場：仙台駅西口バスプール（下図①）

- A) 16 番乗場から「交通公園・川内（営業）（広瀬通経由）」に乗車

→ 「川内郵便局前」（下図②）で下車（バスを降りて左手に見える 6 階建ての建物が「マルチメディア教育研究棟」です）。

- B) 9 番乗場から「宮教大・青葉台（工学部経由）」、「宮教大（工学部経由）」、「動物公園循環（理学部・工学部経由）」に乗車

→ 「東北大川内キャンパス」（下図③）で下車（バスを降りて右側のキャンパスが会場となります。会場の位置がわかりにくいので、キャンパスマップをご参照下さい）。

- 2) タクシーをご利用の場合：

所要時間：仙台駅から約 10 分程度、料金：おおよそ 1,200 円

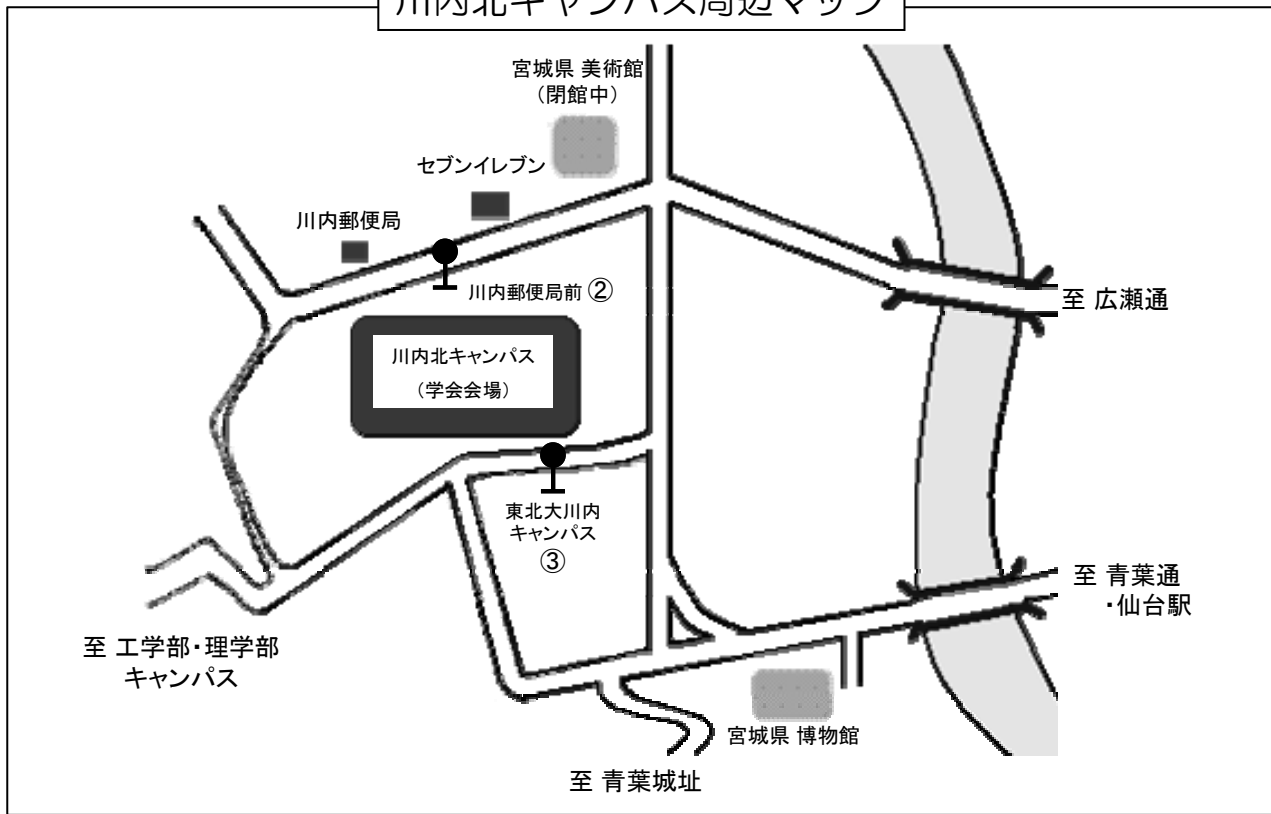
「東北大学川内北キャンパス」といっても広いので、必ず「川内郵便局前」と言ってください。右
下図②に到着します（タクシーを降りて左手に見える 6 階建ての建物が「マルチメディア教育研究棟」です）。

駐車場がキャンパス内にも近辺にもありませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください。市内には多くの駐車場がございます。仙台まで乗用車でお越しの際、市内からタクシーまたはバスをご利用ください。

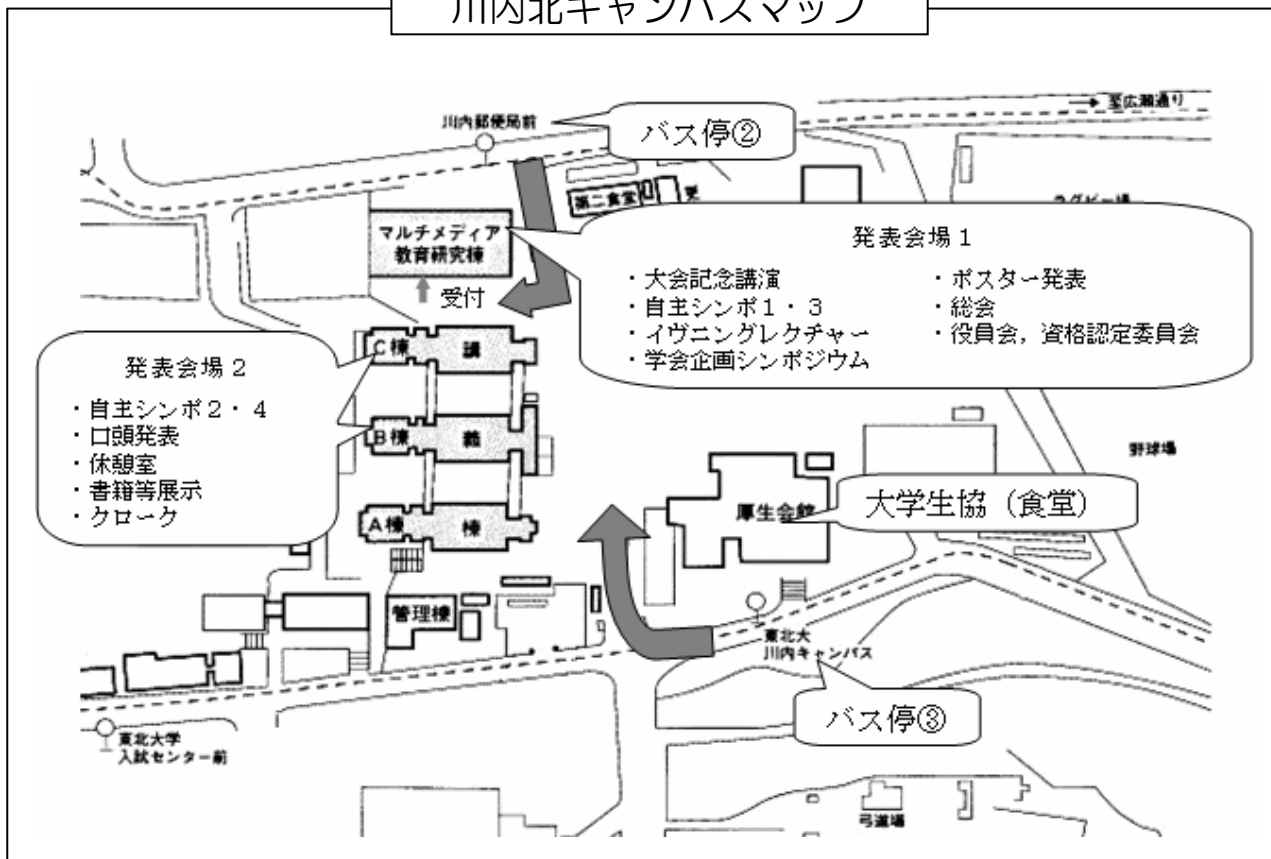


会場周辺地図

川内北キャンパス周辺マップ

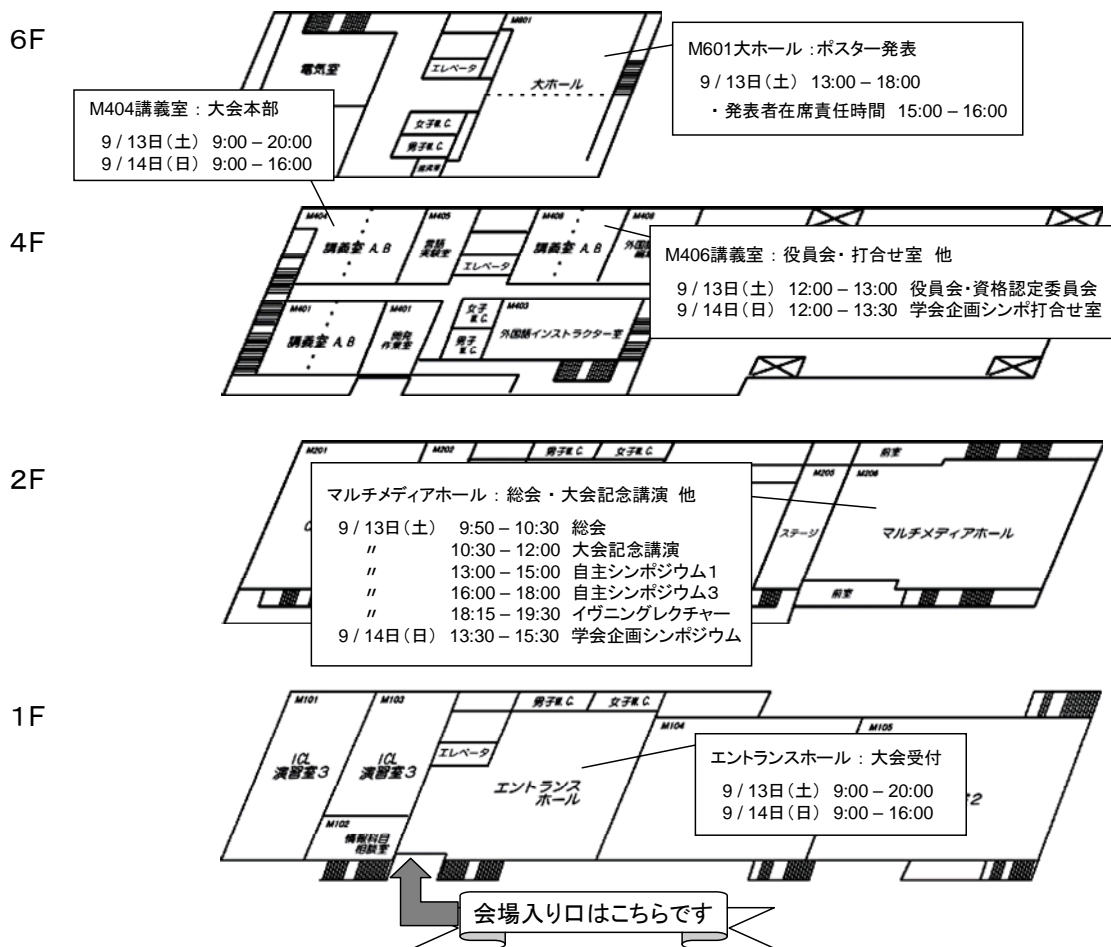


川内北キャンパスマップ

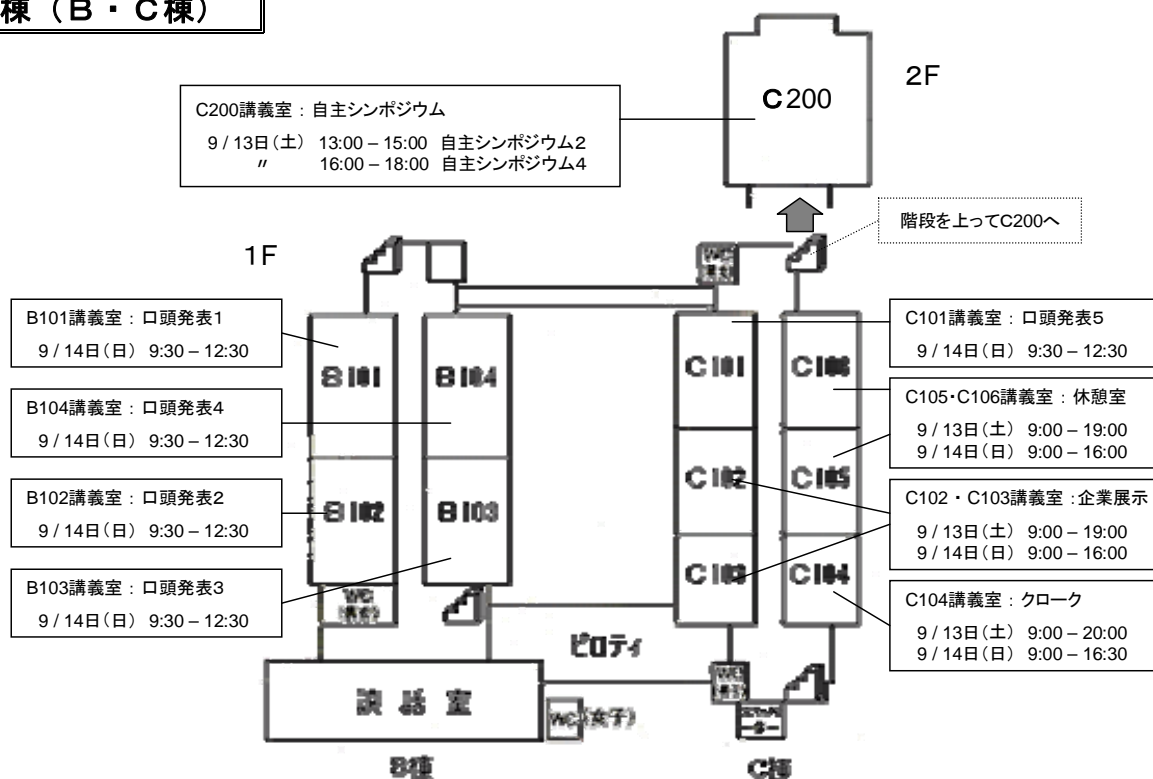


フロア案内図

マルチメディア教育研究棟 (M棟)



講義棟 (B・C棟)



大会参加者へのご案内

1. 総会

大会初日 9月13日(土)の9:50よりマルチメディア教育研究棟2階マルチメディアホール(M206)にて総会を開催しますので、学会会員の皆様はご出席ください。

2. 諸費用

会員参加費	予約 5,000 円 当日 5,500 円	連名発表者・自主シンポジウム関係者の方は必ず前納してください。
臨時会員参加費		会員でない方は予約・納入できませんので、当日受付で納入してください。
2日間：一般	6,000 円	
学部学生	2,000 円	
1日のみ：一般	3,000 円	
学部学生	1,000 円	

※参加費を振り込まれた方には、参加票をお送りいたしました。大会当日必ず受付に提示してください。

3. 参加証について (学会会員のみ)

予約参加の方(参加票をお持ちの方)：9月13日(土)・14日(日)に1日ごとに参加証を発行いたします。マルチメディア教育研究棟1階エントランスホールの受付でご用意しておきますので、1日目は17:00以降、2日目は14:00以降に、忘れないようにお持ち帰りください。取り忘れによる再発行や郵送はいたしませんのでご了承ください。

学会員で当日参加の方(参加票をお持ちでない方)：9月13日(土)・14日(日)に1日ごとに参加証発行申請をしてください。発行申請用紙をマルチメディア棟1階エントランスホールの受付でご用意しておきますので、忘れないように1日ずつ申請してください。後日参加証をお送りします。

4. 荷物預かり・昼食・託児・宿泊の手配について

クロークは、C棟1階C104教室に設けてあります。9月13日(土)は9:00から20:00まで、14日(日)は9:00から16:30までご利用いただけます。貴重品はお預かりできません。両日とも必ず終了時間までにクロークのお荷物をお引取りください。昼食に関しては、2日間とも川内北キャンパス内の厚生会館で大学生協の食堂が11:00から14:30まで営業しております。また、会場から5分くらいのところにセブンイレブンがあります(p2地図参照)。なお、誠に恐縮ですが、学内での託児・宿泊の手配はいたしませんので、ご了承ください。

5. 研究発表

(1) 研究発表の資格

- ① 筆頭発表者および連名発表者は、会員に限ります。会員は2008年度の年会費の納入を完了してください。会員でない方は入会手続きを済ませ会員の資格を取得してください。
- ② 筆頭発表者は参加費の支払いを完了してください。連名発表者も参加費の払い込みが必要です。

③ 筆頭発表者での研究発表は1人1題に限ります。連名発表者はその限りではありません。

(2) 発表形式

【口頭発表】

- ① 発表時間は1題につき15分、質疑応答5分、計20分です。12分で1鈴、15分で2鈴（発表終了）、20分で3鈴が鳴ります。発表時間を厳守するようにしてください。
- ② 使用できる機器は、パソコン、プロジェクター、ビデオです。
- ③ ご用意するパソコンは、OSがWindows Vista、ソフトがPower Point 2007になります(2000, 2003のファイルは読み取り可)。パソコンを使用する方は、データファイルをUSBメモリ(事前にVistaで使用が可能かどうかを必ずご確認ください)に入れてご持参してください。Macをご使用になりたい方は、大会準備委員会まで必ず事前にご連絡くださるようお願い申し上げます。
- ④ セッション開始前に、データを会場のパソコンに移し、動作確認をしていただきます。責任発表者は14日(日) 9:00に各教室に集合するようにお願いします。

【ポスター発表】

- ① ポスター掲示時間は13日(土) 13:00~18:00です。12:00~13:00の間に、ポスターを掲示してください。発表者の在席責任時間は15:00~16:00です。この時間はポスターが貼ってある場所に必ず在席して、質疑・討論に応じてください。
- ② 会場に掲示用ボードを用意します。ボードのサイズは、高さ180cm×幅90cmです。ボード内に収まるようにポスターを作成してください。上部に「題目」「氏名」「所属」をお書きください。画鋏または粘着タブを会場にご用意致します。18:30を過ぎても掲示してあるポスターは大会本部で処分いたします。

6. 自主シンポジウム

(1) 企画者・司会者の資格

- ① 自主シンポジウムの企画者・司会者は、2008年4月現在で学会会員に限ります。話題提供者と指定討論者は、臨時会員であっても差し支えありません。
- ② 自主シンポジウムの企画者・司会者は、大会参加費の支払いを必ず事前に完了してください。自主シンポジウムに関与する臨時会員は、大会参加費等を当日受付にてお支払いください。
- ③ 自主シンポジウムに関与する会員は、他の自主シンポジウムに重複して参加はできません。

(2) 発表形式

- ① 自主シンポジウムの時間は全体で2時間です。運営は企画者に一任されます。
- ② 使用できる機器及びソフトは、口頭発表と同じになります。

※大会当日の印刷物の取り扱いについて

資料を配布される方は必要部数を予めコピーしてお持ちください。配布も各自でお願い致します。当日に資料を印刷したい場合、11:00~14:30は大学生協(p2 地図参照)でコピー機が利用可能です。それ以外の時間は、大学付近のコンビニのコピー機をご利用ください(セブンイレブン:p2 地図)。

● 大会記念講演【13日（土）10：30～12：00】

会場：マルチメディア棟2階 マルチメディアホール（M-206）

テーマ：発達障害と最近の傾向 —医療の現場を中心に—

講演者：市川 宏伸（東京都立梅ヶ丘病院院長）

★ イブニングレクチャー【13日（土）18：15～19：30】

会場：マルチメディア棟2階 マルチメディアホール（M-206）

テーマ：自閉症児教育と支援の40年：来し方と行く末

講演者：寺山 千代子（目白大学）

司会者：中根 晃（日本自閉症スペクトラム学会会長）

◆ 学会企画シンポジウム【14日（日）13：30～15：30】

会場：マルチメディア棟2階 マルチメディアホール（M-206）

テーマ：自閉症スペクトラム児・者の就労への支援
— 送り出し側と雇用側の連携 —

企画者：東條 吉邦（茨城大学）

寺山 千代子（目白大学）

高木 徳子（京都女子大学OG 発達支援研究所）

仁平 義明（東北大学）

司会者：東條 吉邦

話題提供者：小島 秀子（静岡県立袋井特別支援学校）

金原 光弘（株式会社 丸八真綿）

多賀 鉄朗（株式会社 日立物流）

指定討論者：伊東 玄（RITA コンサルティング）

松矢 勝宏（目白大学）

自主シンポジウム ①【13日(土) 13:00 ~ 15:00】

会場：マルチメディア棟2階 マルチメディアホール (M-206)

テーマ：通常の学級のLD等の児童への支援をどのように進めるか

企画者：吉田 昌義 (帝京大学)

司会者：吉田 昌義 (帝京大学)

話題提供者：小堺 紀子 (世田谷区立松原小学校)

石川 恭子 (世田谷区立松原小学校)

村田 朱音 (本宮市立糠沢小学校)

指定討論者：有澤 直人 (江戸川区立下鎌田小学校教諭)

自主シンポジウム ②【13日(土) 13:00 ~ 15:00】

会場：C棟2階 C-200

テーマ：役立つ発達検査の開発2

企画者：小林 重雄 (名古屋経済大学)

司会者：平 雅夫 (星槎大学)

話題提供者：高木 徳子 (京都女子大学OG 発達支援研究所)

多田 裕夫 (就労移行センターC.O.College)

平 雅夫 (星槎大学)

指定討論者：小林 重雄 (名古屋経済大学)

自主シンポジウム ③ 【13日(土) 16:00 ~ 18:00】

会場：マルチメディア棟2階 マルチメディアホール (M-206)

テーマ：TEACCHプログラムによる自閉症児の支援

～構造化による指導とアセスメントの重要性～

企画者：梅永 雄二 (宇都宮大学大学院特別支援教育専攻)

司会者：間宵 克弘 (宇都宮大学内地留学生 栃木県立のぞわ特別支援学校)

話題提供者：吉成 奈津美 (宇都宮大学内地留学生 栃木県立国分寺特別支援学校)

岩佐 美奈子 (宇都宮大学内地留学生 栃木県立富屋特別支援学校)

鈴木 智洋 (宇都宮大学内地留学生 栃木県立足利中央特別支援学校)

加藤 真優 (宇都宮大学大学院)

恒川 すみれ (宇都宮大学大学院)

指定討論者：梅永 雄二 (宇都宮大学大学院特別支援教育専攻)

自主シンポジウム ④ 【13日(土) 16:00 ~ 18:00】

会場：C棟2階 C-200

テーマ：自閉症スペクトラム児・者の発達と社会参加への支援

企画者：谷地 ミヨ子 (NPO法人 MMサポートセンター)

司会者：管野 真理子 (NPO法人 MMサポートセンター)

話題提供者：長田 泉 (NPO法人 MMサポートセンター)

星 佳織 (NPO法人 MMサポートセンター)

研究発表

口頭発表 ① 【14日(日) 9:30 ~ 12:30】

B棟1階 B101 教室

座長：立松 英子・山口 千鶴子

1. 通常の学級に在籍する自閉症スペクトラム生徒の「個別の指導計画」と支援の実践
黒田 純子（京都市立二条中学校）
2. 違いを認め合って、ともに生きる社会をめざして
～通常学級における特別支援教育理解のための授業実践から～
山口 千鶴子（川崎市立住吉中学校）
3. 通級指導学級における協力意識を高める指導について ～協同学習の技法を取り入れた指導～
○ 福岡 優紀（練馬区立光が丘第一小学校）
大家 由利子（世田谷区立船橋小学校）
4. センターの機能への取り組み ―現状と課題―
○ 山本 正人（愛知県立安城養護学校）
白濱 菜穂子（愛知県立安城養護学校）
5. 柏市における発達障害者支援の取組み3 ―発達障害サポーター研修会の参加者―
○ 横内 郁子（特定非営利活動法人 自閉症サポートセンター）
松井 宏昭（特定非営利活動法人 自閉症サポートセンター）
6. 自閉症の障害特性に応じた教育課程を適用する対象の検討
―重度の知的障害との重なりに着目して―
立松 英子（東京福祉大学大学院）
7. 言語性能力の高いK君への支援 人間行動科学的療育方法論
ボーン ふさ子（ボーン・コミュニケーションクリニック）

口頭発表 ② 【14日(日) 9:30 ~ 12:30】

B棟1階 B102 教室

座長：久賀谷 洋・高木 徳子

1. 幼稚園での自閉症スペクトラム支援 ―教育コンサルテーションを通して―
○ 久賀谷 洋（京都市児童福祉センター）
関根 舞（京都市発達障害者支援センター）

門 眞一郎（京都市児童福祉センター）

2. 自閉症児の退院に向けた家族支援 退院後の生活に不安を持っていた母親の事例

久下 桂子（東京都立梅ヶ丘病院）

3. 学校での支援を進路先へ ～ある生徒の進路支援の一事例～

佐藤 謙成（前沢養護学校）

4. 広汎性発達障害のある子への就学支援

西村 伸子（東京都立八王子特別支援学校）

5. 社会自立のためのプログラム（支援）

○ 高木 徳子（京都女子大学 OG 発達支援研究所）

渡辺 裕美子（京都女子大学 OG 発達支援研究所）

桜井 薫（京都女子大学 OG 発達支援研究所）

6. 高機能 PDD 青年の自立と就労 親の会の現状とこれから

○ 植原 淳子（多摩・高機能 PDD 親の会）

谷川 貴美（多摩・高機能 PDD 親の会）

川崎 葉子（むさしの小児科発達クリニック）

猪野 民子（むさしの小児科発達クリニック）

坂井 和子（むさしの小児科発達クリニック）

村上 公子（むさしの小児科発達クリニック）

7. 社会性を伸ばすためのとりくみ

西山 剛司（京都府立南山城養護学校）

口頭発表 ③ 【14日（日）9：30～12：30】

B棟1階 B103 教室

座長：伊藤 斉子・今野 義孝

1. 自閉症スペクトラム児のことば・文字の獲得

○ 前田 宣子（富山大学附属特別支援学校）

寺山 千代子（目白大学）

2. 思春期自閉症者に対する対人マナーの向上を目指した支援 —マナーブックを使用して—

○ 上部 浩子（都立梅ヶ丘病院治療教育部門 保育士）

堀水 真紀子（都立梅ヶ丘病院治療教育部門 保育士）

高野 明子（都立梅ヶ丘病院治療教育部門 保育士）

3. 動作法による自閉症児のコミュニケーション行動の形成過程

今野 義孝 (文教大学人間科学部)

4. 「一番になりたい」という気持ちの強い自閉性障害のある思春期事例

—特殊学級における特別なニーズを考える出発点—

輪島 友絵 (北海道札幌養護学校共栄分校)

5. 「心の理論」高次テスト (日本語版) のコンピューター・ソフト開発

—小学生の通過率における年齢と性差による違い—

○ 伊藤 斉子 (兵庫医療大学リハビリテーション学部作業療法学科)

石坂 好樹 (京都桂病院)

高田 哲 (神戸大学大学院保健学研究科)

6. 教育実践にいかせるアセスメントのあり方

澤 月子 (京都府立向日が丘養護学校)

7. 自閉症者における「孤立」の現象学的考察 —森口奈緒美の手記を通して—

眞次 浩司 (福岡大学大学院人文科学研究科)

口頭発表 ④ 【14日 (日) 9:30 ~ 12:30】

B棟1階 B104 教室

座長: 緒方 千加子・山下 公司

1. 高機能広汎性発達障害と学習困難 —特性との関連から困難の要因を考える—

山田 充 (堺市立日置荘小学校 通級指導教室)

2. 「場面緘黙及び幼稚園のトイレを使わずにがまんしてしまう」ことを主訴として来室した

女兒への取り組み 第1報

○ 谷地 ヨミ子 (NPO 法人 MM サポートセンター)

長田 泉 (NPO 法人 MM サポートセンター)

管野 真理子 (NPO 法人 MM サポートセンター)

星 佳織 (NPO 法人 MM サポートセンター)

高島 律子 (NPO 法人 MM サポートセンター)

半谷 良子 (NPO 法人 MM サポートセンター)

3. 特別支援学級での対人関係における不安耐性の弱い児童への支援

山下 公司 (札幌市立藤野小学校)

4. 発達障害の視点からみた不登校の実態 —広汎性発達障害に焦点をあてて—

- 加茂 聡 (茨城大学大学院教育学研究科)
- 東條 吉邦 (茨城大学教育学部)

5. 初等科音楽指導法の研究 —注意力が散漫な児童の学習態度及び音楽能力の向上について—

- 平田 千秋 (品川区立清水台小学校)

6. 自閉症スペクトラムにおける音楽治療教育の適用 (2)

—PDD 及び自閉症の2症例に関する認知特性と発達経過からの考察—

- 緒方 千加子 (白百合女子大学発達臨床センター)
- 紺野 道子 (東横学園短期大学)
- 黛 雅子 (白百合女子大学発達臨床センター)
- 森永 良子 (白百合女子大学発達臨床センター)

口頭発表 ⑤ 【14日(日) 9:30 ~ 12:30】

C棟1階 C101 教室

座長: 石井 正子・菅原 慶子

1. 発達障害児のライフステージに合わせた支援継続の必要性

—支援が中断した自閉症スペクトラム児の青年期—

- 石井 正子 (昭和女子大学)

2. 青年期自閉症A君の社会適応能力とコミュニケーション能力を高める支援

思春期デイケアにおける実践を通して

- 小松 ふみ子 (東京都立梅ヶ丘病院思春期デイケア)

3. 早期発見・早期支援のための地域連携

—5歳児健診のない地域での早期発見から支援への連携—

- 鈴木 和子 (一関市教育委員会学校教育課)
- 森 由紀子 (一関市立あおば保育園)
- 鈴木 圭江 (一関市千厩保育園)

4. 地域の中で共に学び共に育つ ～一関清明支援学校千厩分教室の取り組み～

菅原 慶子 (岩手県立一関清明支援学校 千厩分教室ハピきら学級)

5. 自閉症児者が暮らしやすい町づくり ～NPO法人ええ町づくり隊の活動から～

- 峠館 祥代 (岩手県立花巻養護学校)
- 中崎 美智子 (岩手県立前沢養護学校)

6. 自閉症児者が暮らしやすい町づくりをめざして ～NPO 法人ええ町づくり隊の活動から～

- 中崎 美智子 (岩手県立前沢養護学校)
- 嶋舘 祥代 (岩手県立花巻養護学校)

ポスター発表【13日(土) 13:00～18:00】

M棟6階 大ホール (M601)

在席責任時間 15:00～16:00

ポスター掲示時間 13:00～18:00

P-01. 広汎性発達障害児に乗馬療育活動がおよぼす効果 —保護者による評価をもとに—

- 慶野 裕美 (愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所)
- 舟橋 厚 (愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所)

P-02. 重度自閉症児の指導に必要なアセスメント①

—指導指針を立てるための PEP-R の有効性について—

- 恒川 すみれ (宇都宮大学教育学研究科)
- 梅永 雄二 (宇都宮大学教育学研究科)

P-03. 自閉症スペクトラム児の行動特徴に応じた課題 1

- 新井 利明 (財団法人明治安田こころの健康財団)
- 山藤 由紀 (財団法人明治安田こころの健康財団)
- 日野原 結 (財団法人明治安田こころの健康財団)
- 三井 菜摘 (船橋市子ども発達相談センター)

P-04. 自閉症スペクトラム児の行動特徴に応じた課題 2

- 山藤 由紀 (財団法人明治安田こころの健康財団)
- 日野原 結 (財団法人明治安田こころの健康財団)
- 新井 利明 (財団法人明治安田こころの健康財団)
- 三井 菜摘 (船橋市子ども発達相談センター)

P-05. 自閉症スペクトラム児の行動特徴に応じた課題 3

- 日野原 結 (財団法人明治安田こころの健康財団)
- 新井 利明 (財団法人明治安田こころの健康財団)
- 山藤 由紀 (財団法人明治安田こころの健康財団)
- 三井 菜摘 (船橋市子ども発達相談センター)

- P-06. 米国ノースカロライナ州における自閉症スペクトラム児への就学前教育Ⅱ
—TEACCH センターにおける指導内容と環境設定の工夫—
柳澤 亜希子 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
- P-07. 構造化による自閉症児への支援
—課題学習中に集中できない児童に構造化のアイデアを用いて—
○ 清水 沙貴 (宇都宮大学大学院教育学研究科)
梅永 雄二 (宇都宮大学大学院教育学研究科)
- P-08. 広汎性発達障害児におけるじゃんけんスキルの形成 —ルール表を用いた指導効果—
○ 松下 浩之 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)
園山 繁樹 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)
- P-09. 対人トラブルのある自閉症児のソーシャルストーリーを用いた指導
○ 佐々木 聡子 (宇都宮大学教育学研究科)
梅永 雄二 (宇都宮大学教育学研究科)
- P-10. ペグボードの模様を手がかりとした気持ちの理解の試みについて
室橋 弘文 (無所属)
- P-11. 小学校における自閉症児への教育的支援の在り方 (1)
～原初的知覚を枠組みとした行動の理解～
○ 山口 勇馬 (琉球大学大学院教育学研究科)
神園 幸郎 (琉球大学教育学部)
- P-12. 高機能広汎性発達障害児・者を持つ母親の告知体験プロセス
○ 山岡 祥子 (東京成徳大学大学院心理学研究科)
中村 真理 (東京成徳大学)
- P-13. 就学期の障害児の母親支援に関する調査研究
—障害児通園事業及び通園施設の取り組みを中心に—
○ 名久井 てるみ (宇都宮大学大学院)
梅永 雄二 (宇都宮大学教育学研究科)
- P-14. 自閉症児の母親のストレスに関する研究 —アンケート調査を通して—
○ 後藤 麻衣 (宇都宮大学教育学研究科)
梅永 雄二 (宇都宮大学教育学研究科)
- P-15. 自閉症児の家庭場面での問題行動の軽減における一考察
—生活リズムの確立と安定を目指して—

- 石原 優 (宇都宮大学大学院教育学研究科)
- 梅永 雄二 (宇都宮大学大学院教育学研究科)

P-16. 自閉症スペクトラム児の言語発達 —発達の順序性の観点から—

- 平 雅夫 (星槎大学)
- 小林 重雄 (名古屋経済大学)

P-17. 気になる子を支える保育園作りに向けて

- 鈴木 圭江 (一関市立千厩保育園)
- 鈴木 和子 (一関市教育委員会)
- 森 由紀子 (一関市立あおば保育園)

P-18. 幼児期における子どもの姿からの気づきとその支援

- 森 由紀子 (一関市立あおば保育園)
- 鈴木 和子 (一関市教育委員会)
- 鈴木 圭江 (一関市立千厩保育園)

P-19. 未満児保育園での気づきと支援

- 佐藤 桂 (一関市立八幡町保育園)
- 森 由紀子 (一関市立あおば保育園)

P-20. 保育者はどのような時子どもの対応に迷うのか

—自閉性障害とアスペルガー障害の対応の迷いの違い—

- 仁平 説子 (東北大学医学部附属病院小児科)

P-21. 幼児期の支援 ～PECS を用いたコミュニケーション～

- 須川 和美 (与謝野町立岩滝保育所)
- 牛田 睦美 (与謝野町立岩滝保育所)
- 後藤 郁子 (与謝野町立石川保育所)
- 上山 晃平 (与謝野町立石川保育所)
- 糸井 真由美 (与謝野町立石川保育所)
- 中西 満寿美 (京都府立与謝の海養護学校)

P-22. PECS による行き先カードの有効性

—特別支援学校での教室移動の場面で発話を促す指導において—

- 伊藤 政一郎 (静岡県立浜松特別支援学校)

P-23. 子どもたちが、わかりやすく、生活しやすい環境作りへの組織的取り組み

- 須田 悦子 (福島県福島市立福島養護学校)
- 岩谷 亜希子 (福島県福島市立福島養護学校)
- 田邊 忠一 (福島県福島市立福島養護学校)

P-24. 自閉症の子どもの「ひととやりとりする力」を育てる
～共同行為ルーティンによる指導の効果～

中元 晶子（和歌山県立はまゆう支援学校）

P-25. 高機能広汎性発達障害をもつ子どもへの支援

高橋 順治（奈良県生駒市立生駒小学校通級指導教室）

P-26. 自閉症傾向のある児童への包括的な学級支援

—授業を阻害する発言に対する担任の働きかけ—

○ 村田 朱音（福島県本宮市立糠沢小学校）

鶴巻 正子（福島大学人文社会学群）

仁平 義明（東北大学大学院文学研究科）

P-27. 広汎性発達障害児の行動支援 ～問題行動の変容～

原 康行（和歌山県立はまゆう支援学校）

P-28. 小学校から特別支援学校中学部への移行支援 —スムーズな移行に向けての取組—

丸山 肅（京都府立舞鶴養護学校）

P-29. スムーズな移行を目指して ～自閉症スペクトラム児童生徒を中心に～

山口 順子（富山県立にいかわ養護学校）

P-30. 特別支援教育センター校における関係機関との連携の在り方

亀田 恵子（富山県立にいかわ養護学校）

P-31. ネットワーク力で再び社会に歩み出すことができた事例

○ 田原 美恵子（鳥取県自閉症協会）

段田 太（鳥取県自閉症協会）

第7回研究大会準備委員会

【大会準備委員会】

準備委員長（大会会長）

仁平 義明

顧問

中山 幸夫

事務局長

佐藤 拓

委員

荒木剛 池田和浩 奥田永 菊地史倫

今野晃嗣 鶴巻正子 山本佳子

大会本部

宮城県仙台市青葉区川内 27-1

東北大学文学部教育学部研究棟 740

Tel: 022-795-7691 (仁平)

大会用携帯電話 080-1816-3362*

(大会期間中 9/13,14 のみ)

E-mail: aut7@sal.tohoku.ac.jp

※ 携帯電話は緊急の場合にのみご使用ください

※ 大会参加者の呼び出しや配布資料のコピーなどには
応じかねますのでご了承ください

日本自閉症スペクトラム学会

〒273-0866 千葉県船橋市夏見台 3-15-18

TEL 047-430-2010 FAX 047-430-2019